

回答・元玉川大学教職サポートルーム客員教授 峯岸 誠

第5回 私でも参加できるの？ －全国大会・ブロック大会－



全国大会やブロック大会の案内が職場に届きます。どのような大会なのでしょう。どのような人が参加しているのでしょうか。

A (1) 全国大会・ブロック大会とは

中学校社会科の研究組織は「全国中学校社会科教育研究会（以下、全中社）」と北海道、東北、関東、近畿、四国、中国、九州の各地区の「ブロック社会科教育研究会」に大別されます。全中社には46都道府県の研究団体が加盟し、長野県を除くすべてを網羅しています。

全中社の研究大会（以下、全中社大会）は毎年、全国もちまわりで2日間の日程で開かれます。ブロック大会は加盟県の輪番制で1日です。全中社大会の開催地は、平成40年度の埼玉大会まですでに決まっています。平成28年度の全中社大会は岡山県岡山市で11月17日（木）～18日（金）の2日間の日程で開催されます。近年の特徴は全中社大会とブロック大会をリンクさせているところにあります。今年の岡山大会も中国ブロック大会をかねて開催されます。

大会の規模は、昨年の岐阜大会の紀要をみると、運営に当たる役員が約100名となっています。これに大会当日の会場の諸係を加えると倍近い人数になります。また、大会には北海道から沖縄県まで全国から約600名から1000名が参加します。授業期間中であることを考えると中学校の教科や領域の研究大会としては最大規模と考えられます。

前に述べたように12年先まで全中社大会の開催地が決まっています。したがって開催予定の各県市の社会科教育研究会では、研究主題や授業構想などを大会につなげる構想をもって現在も研究を進めていると考えられます。研究主題や授業構想は学習指導要領の改訂への対応が一つの傾向であり、社会や地域の変貌への対応を主題とすることもみられます。後者の例が平成24年度の香川大会でした。研究主題は「未来社会につなぐ社会認識の構築 ～授業力の継承、そして創造～」でした。これは社会科教員の世代交代への対応を意識した研究でした。

7月の全中社理事会は翌年の開催地で開かれます。今年は次年度開催地の島根県松江市で開かれ、大会の概要が説明されました。また、11月の岡山大会では全体会で島根県が研究の概要を説明し、分野の研究発表も行います。あわせて、会場校や授業者なども公表されます。このように少なくとも1年前には全中社大会のあらまは決められます。

全中社大会の研究を進めるなかで、大学や国立教育政策研究所の教科調査官などの先生方のご指導を得ることがあります。研究組織は基本理論と構想を立てる研究部とこれを具体化する3分野の部会に分かれます。ここでは、研究主題を各分野に落としこむところに大きな工夫が求められます。さらに、数年先の公開授業の担当者の決定も大きな課題です。

近年の全中社大会に特徴的なことが二つあります。一つ目は、3分野の研究を県内の3地区に割りあてることです。平成26年度の滋賀大会では、全体会と地理的分野は津江市、歴史的分野は彦根市、公民的分野は守山市でした。これは全県で研究に取り組むためには効果的です。二つ目は、かつて大会で授業者

や研究推進にかかわった先生方が率先して大会開催を推進していることです。これは、大会に向けての研究を通して教師としての授業力や教材研究力が身につくことを身をもって体験した結果です。ぜひ、若い先生方の積極的な研究への参加を期待します。

(2) 全国大会・ブロック大会当日の流れ

全中社大会では1日目、ブロック大会ではおもに午前中に研究の基調提案や記念講演が行われます。記念講演は大学等の研究者や地元や地域にかかわりの深い著名人の場合があります。平成12年度の東京大会では中西進先生（万葉集の研究者）が講師でした。中西先生は後年、文化勲章を受章されました。昨年の岐阜大会では、柘植康英先生（JR東海社長）からリニア新幹線についての講話をうかがいました。普段は聞くことのできない話が聞かれ、社会科教員として見識を深めることに資します。記念講演の講師の選任は主催者が苦勞するところの一つです。

全中社大会では2日目、ブロック大会ではおもに午後に研究授業が行われます。研究授業は、3分野が3地区（3校）に分散しての場合と1か所で行われる場合に分かれます。1会場の場合は、3分野のすべてを見学することができます。分散の場合は研究内容や自身の興味、専門を勘案して見学する分野をしっかりとこむ必要があります。

研究授業に先だって、分野の基調提案が行われます。この提案の内容が授業にどのようなように生かされ、どのような成果が見こまれ、あるいは見られるのかが研究授業の観察のポイントになります。研究授業は体育館などのかかなり広い場所で行われます。観察場所の確保が何よりも大切です。

研究授業について、研究協議が行われます。

研究授業のようす

研究大会の頂点です。積極的に発言しましょう。研究協議を全体ではなく、数人のグループで行うことも最近みられるようになりました。平成25年度の大阪大会や昨年の関東ブロック大会（茨城県水戸市）がそうでした。このような機会に他地域の先生方との交流を深めましょう。研究協議のまとめとして講師による指導講評が行われます。全中社大会では国立教育政策研究所の3分野の担当教科調査官が行います。今年の岡山大会では現在進められている学習指導要領の改訂についてふれられることが考えられます。期待できます。

(3) 参加する意義

大会参加者はおおむね、各縣市や研究会などから派遣されてくる方と自費で参加する方に大別できます。このほかに、各縣市などの指導主事や大学の研究者の方がいます。近年は、公費の予算措置が難しくなり、自費参加の方が増えているようにみえます。いずれの場合も参加にともなう授業の振替などの代替措置が課題になります。この課題を克服するには平素から授業に反映する研究姿勢を示すことが必要です。研究のための研究では職場の理解は得られません。

大会の成果は、自己だけのものとせず職場や地域や地区の研究会を通して情報を発信しましょう。また、授業に反映させることは何よりも大切なことです。